

お母

It is important thought that if an accident for him and her occurs at the same time, it becomes necessity, and therefore is made.

For Adult Only

Presents by
JIBAKU-SYSTEM



おねがい★

生徒会長様

Then, it proceeds to the future. Without doing not stop and flustering, slowly.

生徒



It is important thought that if an accident for him and her occurs at the same time, it becomes necessity, and therefore is made. Then, it proceeds to the future. Without doing not stop and flustering, slowly.

For Adult Only

Presents by
 自爆SYSTEM

お母

母

おねがい★

生徒会長様

For Adult Only

Presents by
自爆SYSTEM

CONTENTS

JIBAKU-SYSTEM 2005.03.21

おゲスト様のありがたいイラスト達

P30 南条飛鳥様 (遺伝子の舟)

P46 POP様 (ElectromagneticWave)

P47 え★様 りん★様 (テンタイ→カンソク)

P05 『莓』 涼樹 天晴

P31 『おちりの穴』 涼樹 天晴

P37 『ホンシツノカタチ』

小説 しだれ桜

挿絵 むらやまたかひろ

P48 『あとがき』

P50 『奥付』



彼女が力強く囁く
「絶対に止まらないで…」



彼女は言う
「その瞳が気になるから」



初夏の静かな夜

緑の匂いが段々
濃くなっていく季節

暑い空気の中に響くは虫の声



掴んだ彼女の手はとても温かかった

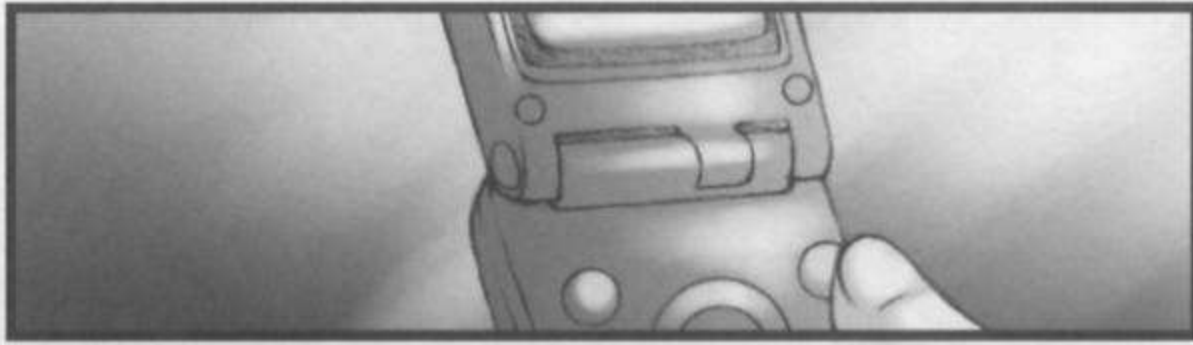
彼女が言う
「私が助けてあげる」
「私が進めてあげる」
「私が教えてあげる」

触れた彼女の手はとても柔らかかった

彼女は断言する
「私が一緒にいてあげる」
「だから…止まらないで…」

彼女の心からの言葉に返した僕の声
「…森野…」

僕の様々で色々な感情をたくさん込めた一言



いつもの木曜日のなんでもない放課後



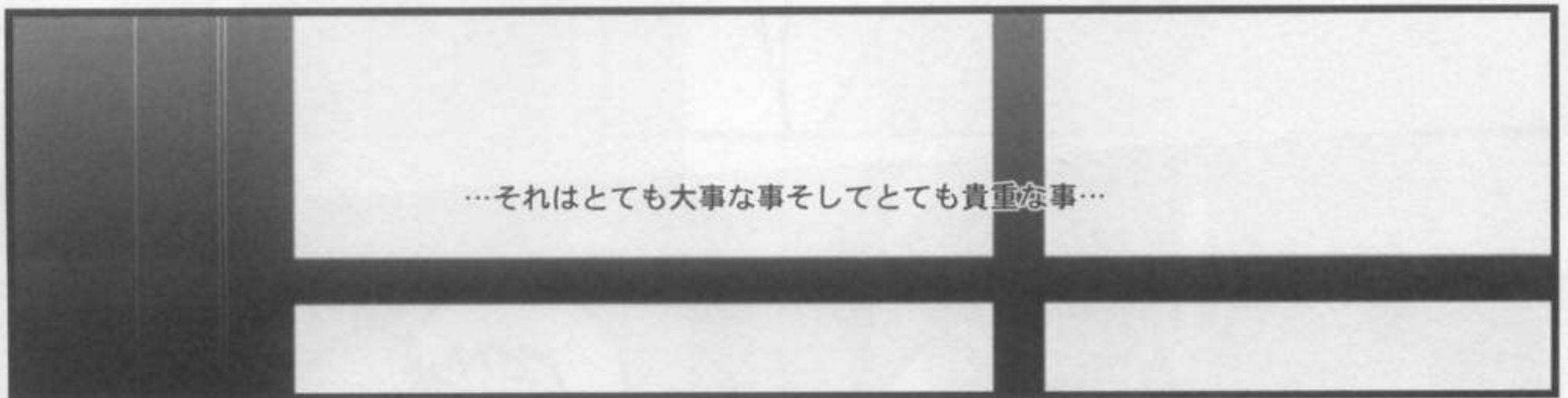
期末考査も終わりあとは夏休みを待つだけ



学校全体には少しだけ心をわくわくとさせる空気が流れている

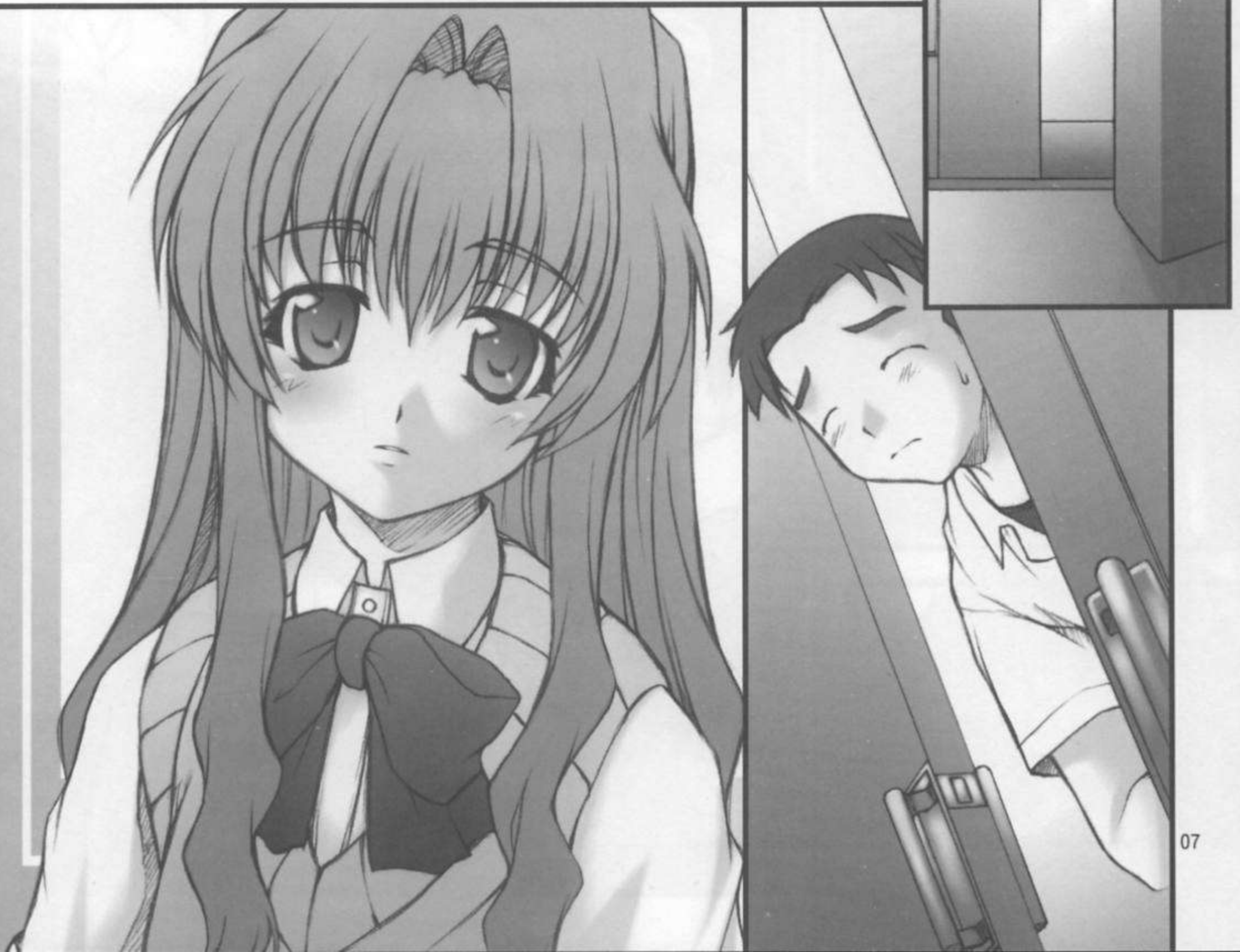


…当たり前毎日が静かに過ぎていく
一秒一分一時間と緩やかだが確実に…

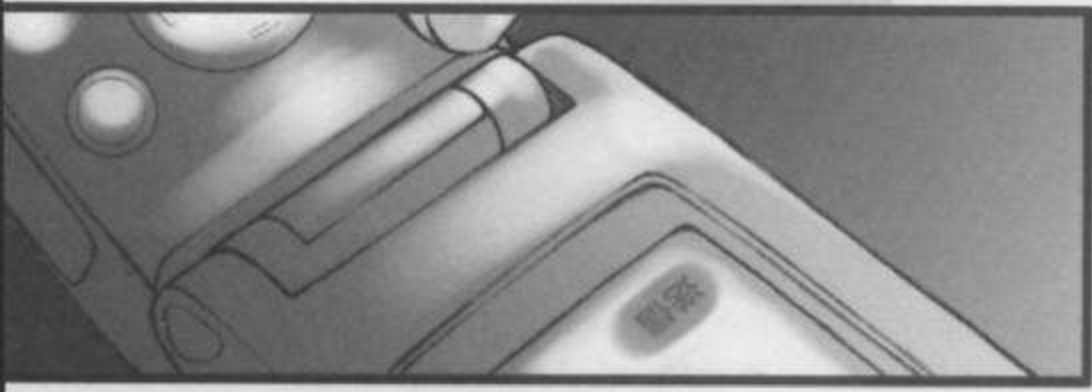


…それはとても大事な事そしてとても貴重な事…

…私が今を一步づつ進んでいる証…





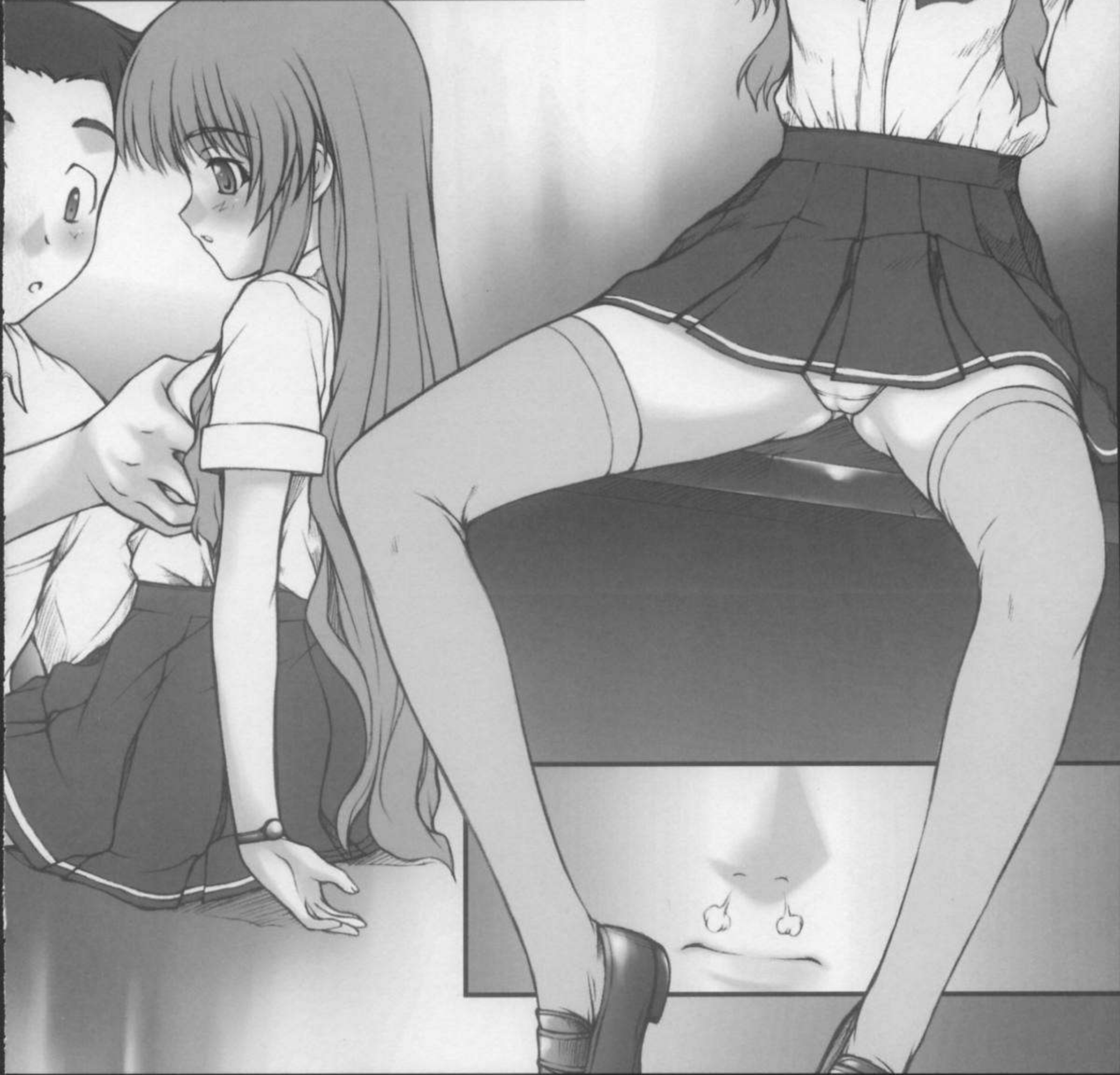


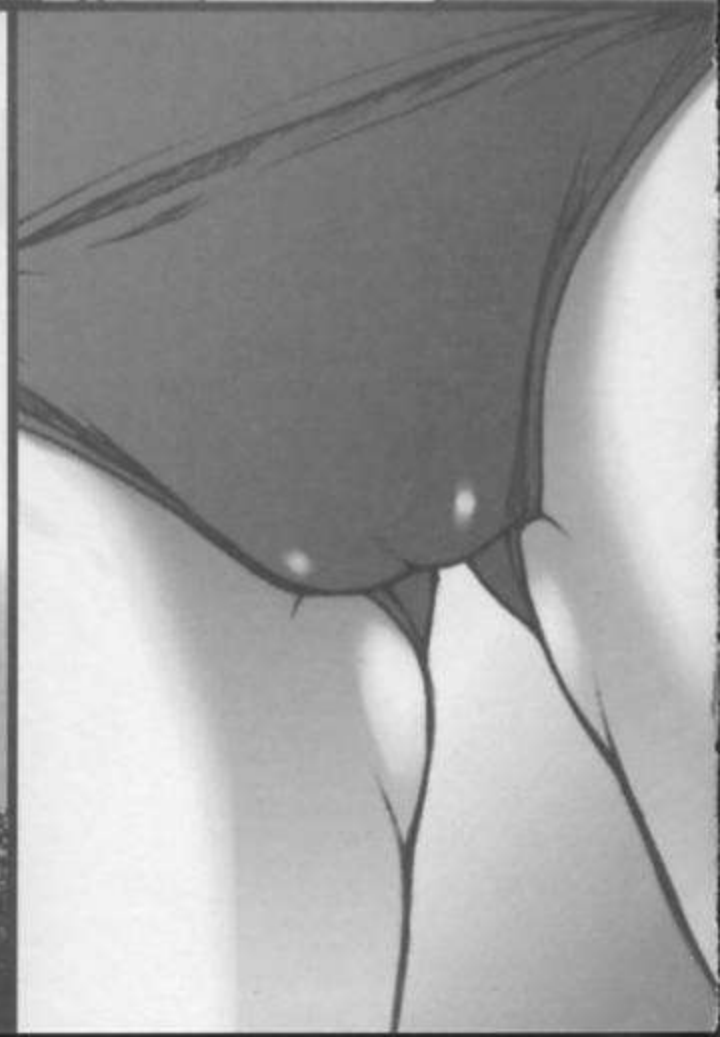
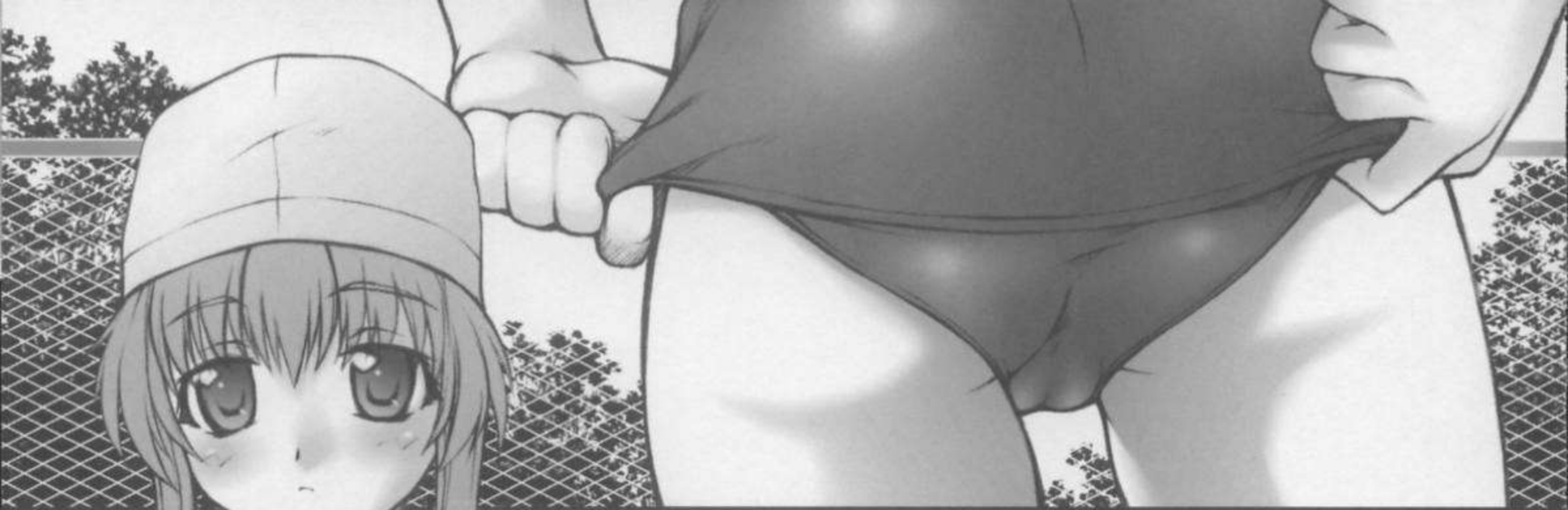


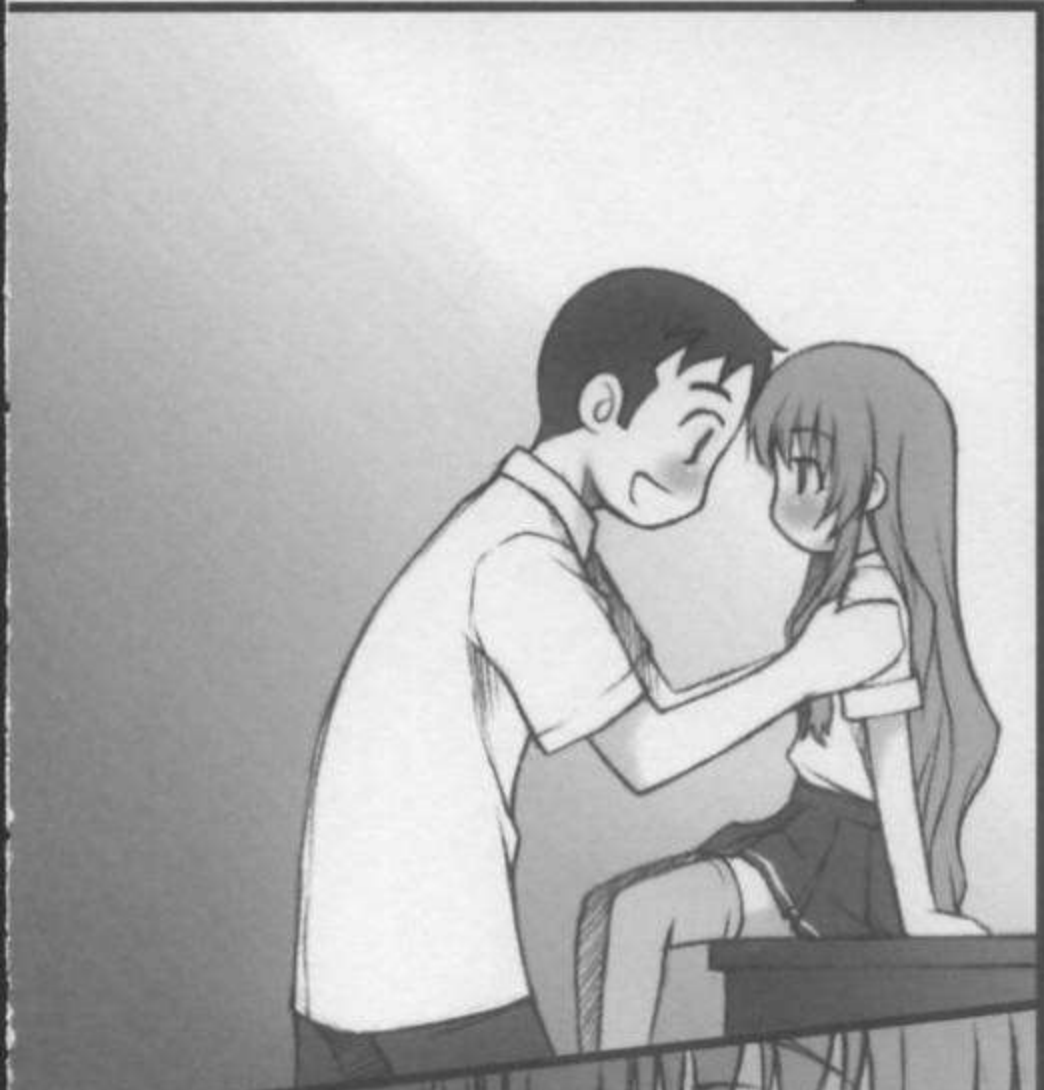
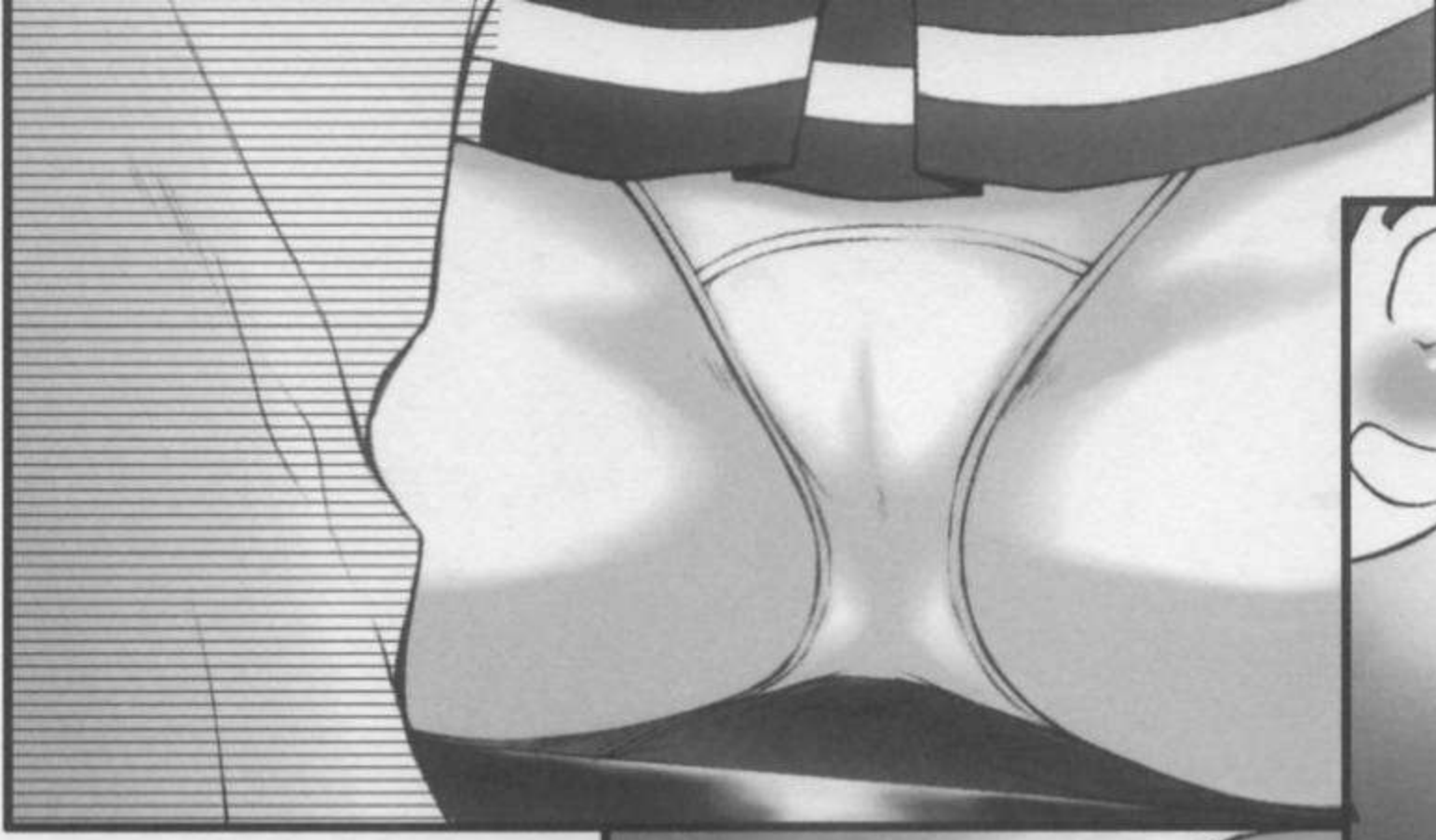




12











16

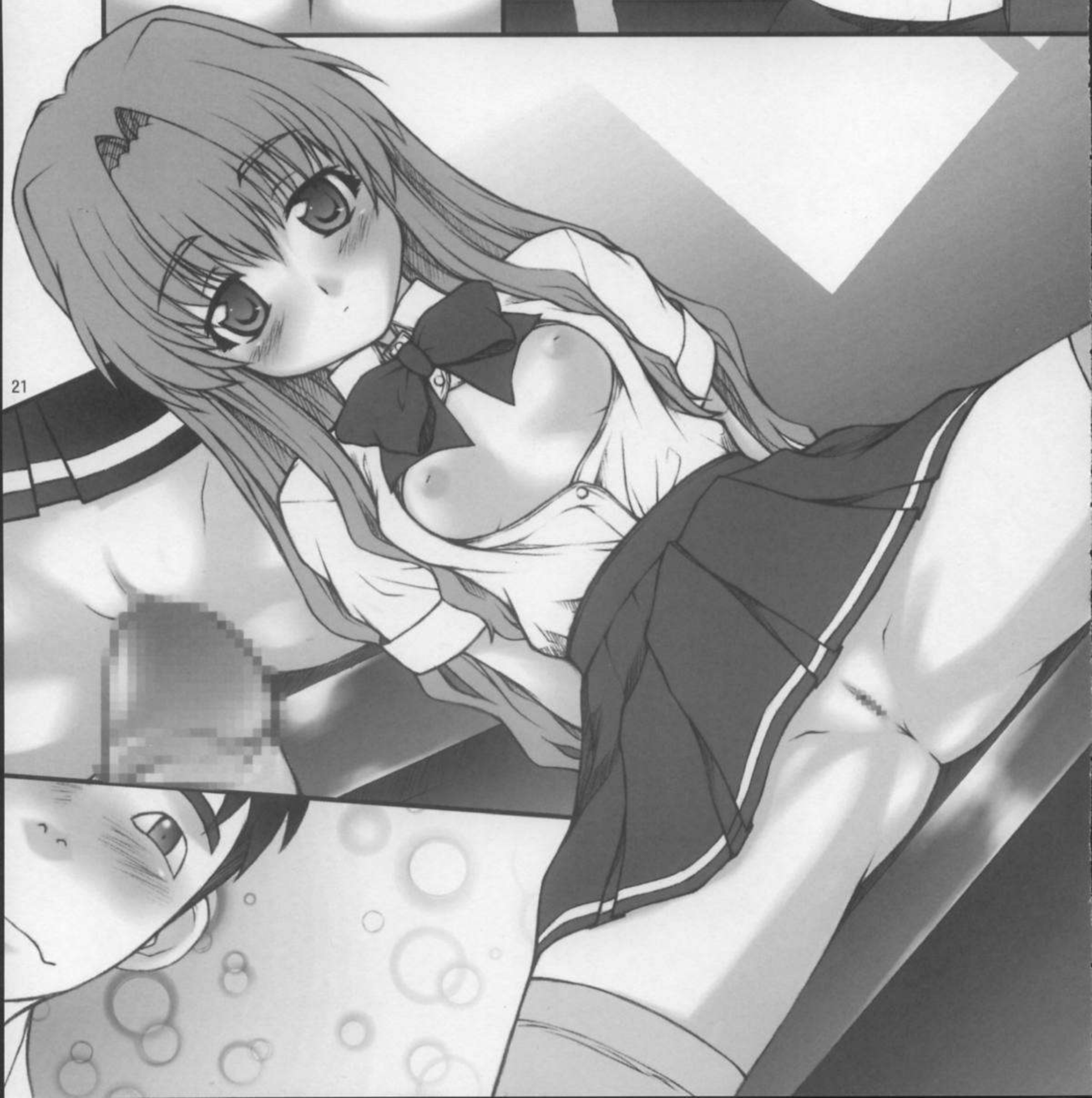


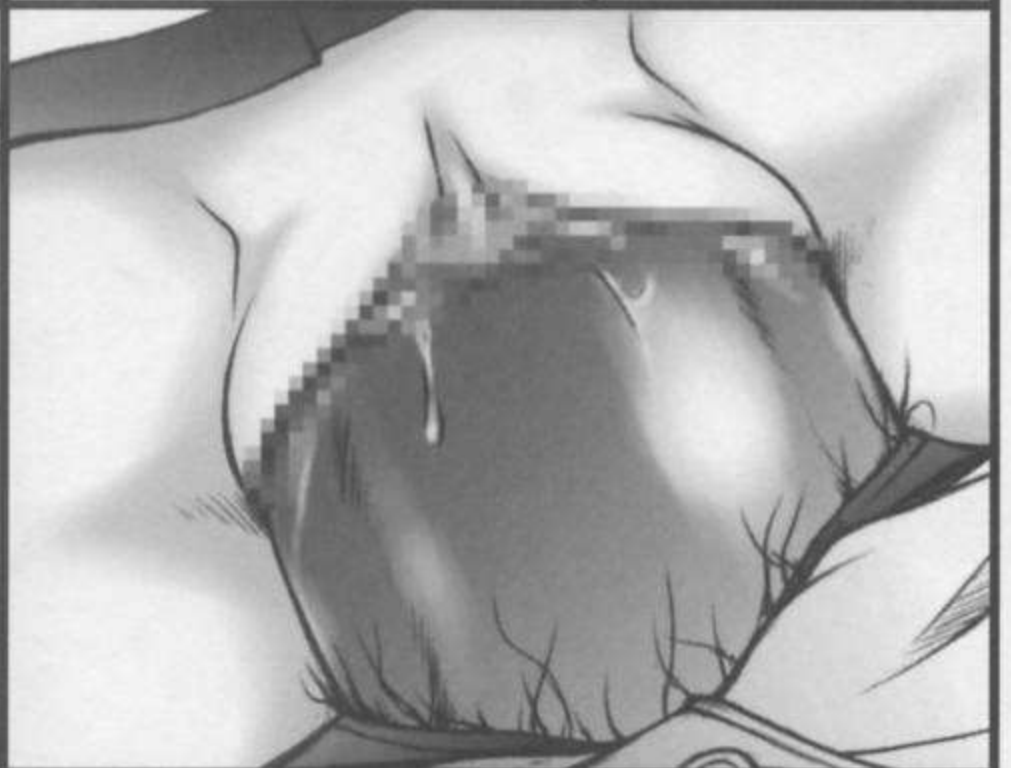
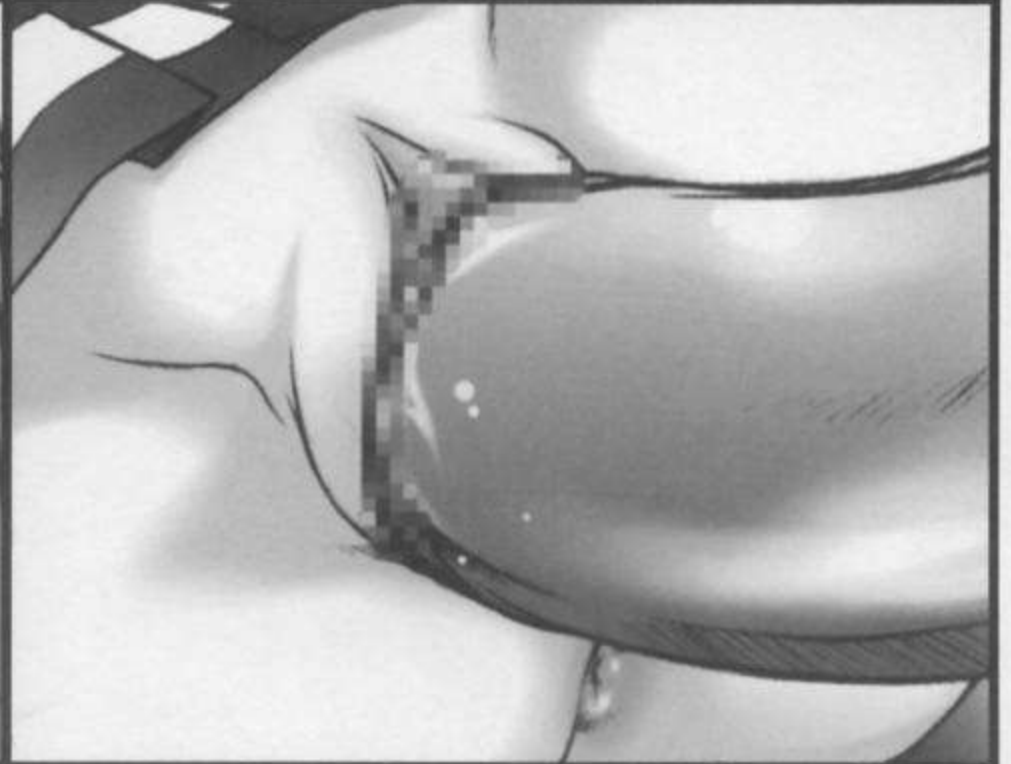
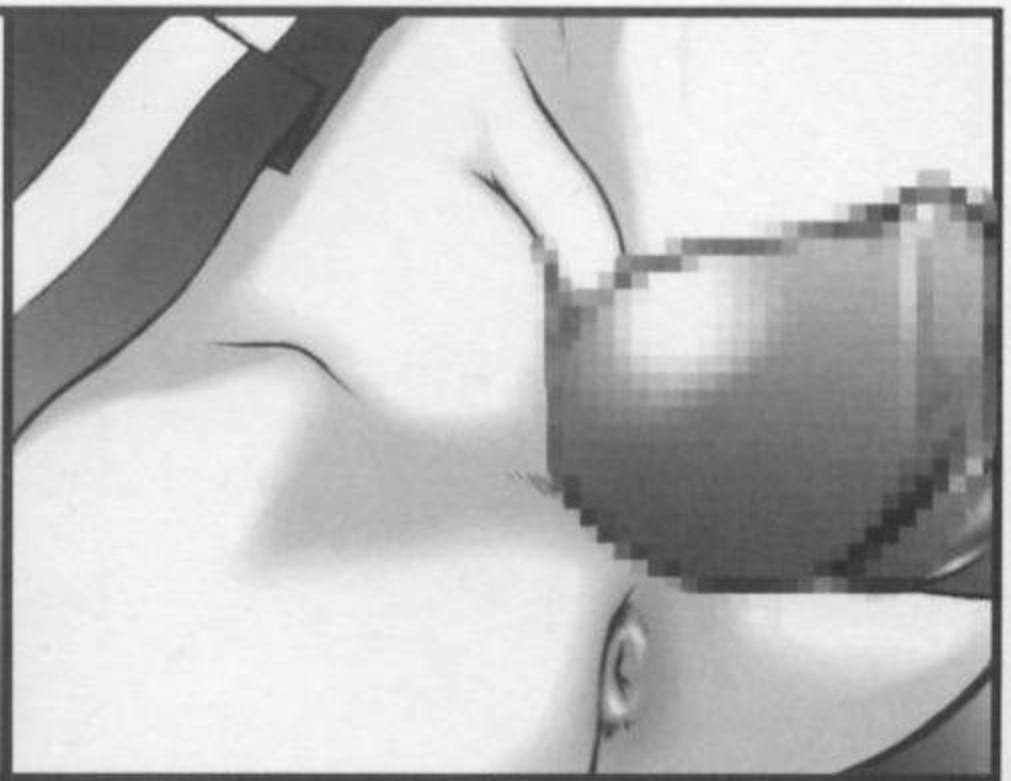


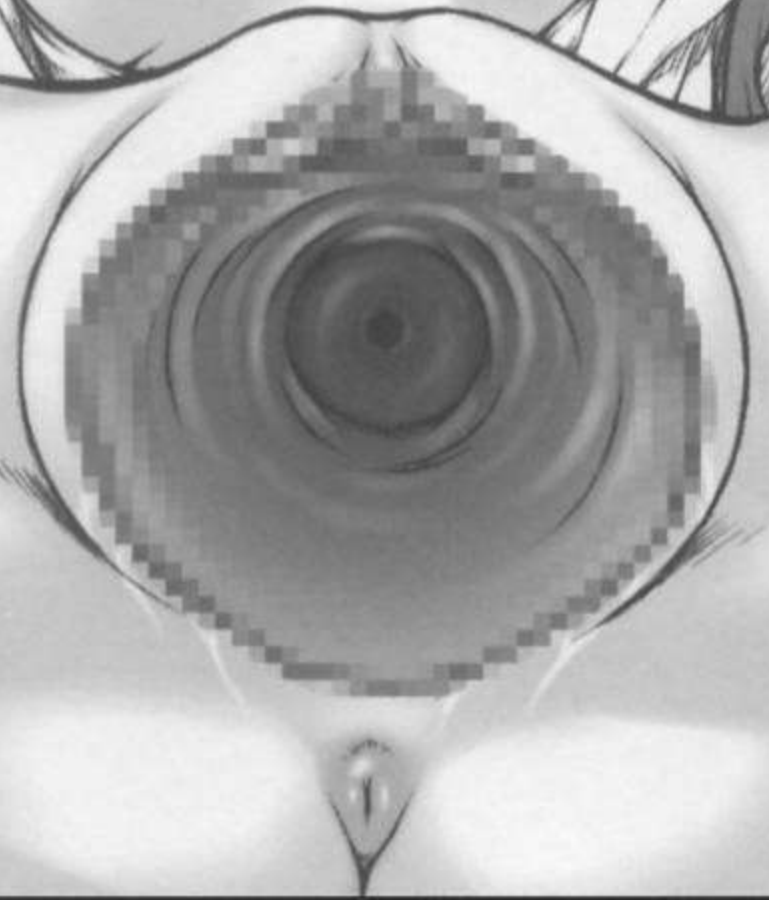
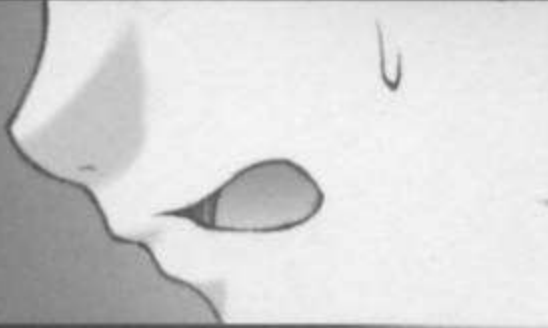






















TO BE CONTINUE 「莓貳」

題して「莓」 やつとこ発行。 遅れてごめんしかも台詞が無いぞ。

はじめましてもしくはお久しぶりの涼樹天晴です☆-(ノ°Д°)ハ(°Д°)ノ ㄝ-ㄝ
やつとこ本が出せました。ちゃんとした本だすの一年ぶりです TT
ゲストの皆様原稿いただいていたのにすみませんでした。

言い訳をいくつかします。
台詞が無いのは落丁じゃないです～
当初台詞をいれるつもりだったのですが
いざ入れてみるとしっくりこねー(°Д°;)!!
ものすごい違和感だもんで外しました。
不親切な漫画だね(´;ω;`)
話の流れがまったくわかんねーよ(´Д`≡`Д`)??
とかしかも続きかよ(°Д°)ゴッ!!
という人のためにHPに台詞だけアップします。
それで許してください(´_(-;-;´_(-;-;^°コ^°コ

こっから先に(°Д°)ハ?とかいう文章が入ったりします。
「莓」遅くとも去年には発行するはずだったのがここまでずれるとは自分も予想外でした
色々あって(´;▽;`)
ここまで遅らせたので訳を話すと・・・(´;`Д`)ウッ…
私事ですがすみませんがこの一年間で父が亡くなりました。
そんで祖父も亡くなり、叔父も亡くなりました。
いやもー凹むとゆうかなんというか_ _ _ _ _ ○・・・はうう・・・
さらに鬱病と高血圧に襲われました三(!!!`Д`)
病院にいったらなんとか動けるようにはなりました。

とりあえずなんとか製作活動を再開する事が出来そうです
どれくらい復活したかというとなGN02でVP1位取得で戦功ウハウハまで復活しました。
とゆーわけでこれからもよろしくお願いします^^

商業誌と同人誌の製作活動復活します。
とりあえず次はつぎこそはBELIEVE03C (GS美神 横島×タマモ)作成に入ります。
予定はレヴォだけど間に合うかな～

追伸:「舞HIME」本作りたいたいけどもう終わりそう TT

2005.03.18 涼樹天晴

ねえ、草薙君はやく挿入^{いれ}て…♡

大丈夫よ、この生徒会室は誰も来ないから…♡

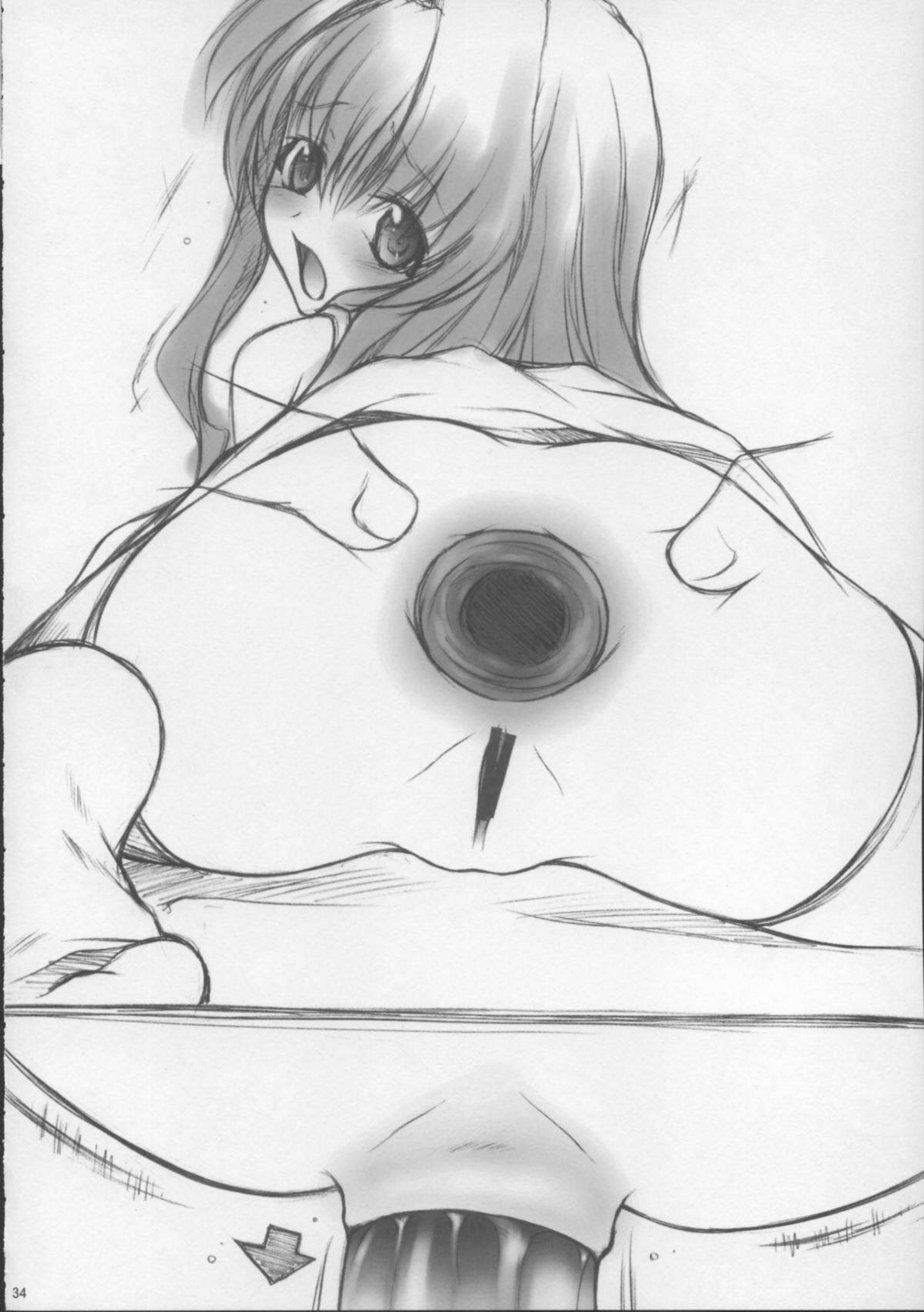
判^わってるわ

瑞穂先生には秘密にしておいてあげるから。うふふ。













↑ すりこぎ

『まあ、こんなのも良いかな?』

Sentence しだれ桜

Illustration おらやまたかひろ

0

糸を引く。

ぬぐりと、指先に当たる肉の感触。

重く、そして生々しい。

深く、響いた。

指先からみつく熱。

それを感じるのが楽しくなっていた。

いつから？

その問い掛けには、自分は答ええない。

だけどそう問いかけるのは、きつと楽しかった。

『まあ、こんなのも良いかな？』

(ichigo side)

本文 しだれ桜

挿絵 むらやま たかひろ

1

停滞していた時間。

流れ出した時間それを感じて。

始まった日常は、私にとって忘れていた。

過去。そして未来。

昔のように、すべてを閉ざす必要はなく、

一歩一歩前に進んでいる。

受け入れるその流れ出した時間に身を委

ねて、思い切り笑ってみる。

そんな日常を取り戻せた事。

だけど、どこかきこえない。

それでも。

まあ、こんなのも良いかな？ 等と心
の中で呟いてみる。

そう思うたびに、口元が、ついと歪む。

その瞬間、指先に絡んだ熱い糸を忘れて
いた。

ゆつくりと腰を上げた。

スカートが、ばさりと落ちて。

下着で覆っていない肉を隠す。

視線を下ろす。

今は、スカートで覆われた股間。

性器。

誰かに入れてもらった感触が懐かしい。

静かに、逡巡して、赤い肉がひくりとう
ずいた。

思考が、さっきの時間を反芻する。

そして、一人で遊んでみる。

ふたたび。

2

まだ、思いを求めている。

日常の中、教室の中でのざわめきに身を
投じるとき。

私はここにいて良いのかを問いかけた
なる。

日常に混じれない日々の繰り返しを、誰
が分かってくれるのか。

と言ってもまあ、へこんでるわけじゃな
いけど。

悲観してるのか？

それとも「おはよお」と明るい声。

聞き慣れた音。それは、滑りを伴って耳

に残る。まるで、耳の内側で響く音は、二

チュニチュと、ぬめるように、グブリと肉

をこすり上げる音。

日常が、昨夜の感触を彷彿とさせ、まる

で、忘れるなど言わんばかりに、私を求め
てくる。

あの感触。

貫いた肉。

塊。



そして指先。

再び、顔が歪んで、笑う。

そんな私の顔に不安を感じたのか、不思議そうに「大丈夫？」と問いかけてくる声。

私は、微笑んで「大丈夫」と切り返した。

その言葉に、不思議そうに頷いた。

柔らかく、頬を緩めて、対人用の顔を作る。

笑顔。

似合わない。

感情を押し殺したもののほうが、私らしい。

それを知っているから、でも、止まっていた時間は、動き出した。

私は、私を取り戻した。

はず……。

だから、ちよつかいもかける。

引っかき回すのが楽しいわけじゃないけど、見ている方がじれったい。

そんな風に思ってしまう。

何を考えているのか、分からない風に見えるから。

端から見たら、私は何を考えているのか分からないだろう。

でも、それで良い。

それが、私だから。

まあ、こんなのも良いかな？ なんて

思ってみる。

早く、家に帰りた。

そして、自分の存在を感じたい。

熱い肉を指でさいて感触を求めたい。

まるで、女の用に……。

その感触が、私を私だと導くようで。

だから、私のなかの不安を消すのかもしれない。

だから、こそ、私の口元がふっと歪みかけ。

だからこそ自分に素直に

淫らに、破顔った。

その瞬間、意識が。

3

意識が。

あの夜へと向かう。

そして、再び私は始めた。

一人で、服を脱ぎ捨て、角にもたれかかるように。

指先が、布の上から、まさぐる。

しつとりと、乳房の小さな丸みを探るように。

モゾモゾと、指がはうたびに、生暖かな

膚が、ピクリと反応する。

心地よい。

木綿のざらざらとした、指触り。

乳房の肉の刺激。

生暖かなトクトクという鼓動。

思い出す。

昨夜の肉の疼き。

ヒグリヒグリと、指の先で、なまめかしく動いた感触。

うろの中を指先が当たる。

おびえたからだだが、強く、跳ねる。

びくつきりして。

はっとした。

少しだけ、

時間が、意識が、昨夜まで、飛んでいた。

あの刺激を思い出す。ひくりと肉がうずいた。

椅子に座って授業を受ける間。ヒグリヒグリと。

肉が、虚の中で、密をしたたらせて、流れる。

粘り着く刺激。それがしつとりと下着を濡らすのを自覚する。

はあ、と息をついた。

思わず、家に帰りたくなる。

学校が、疎ましく感じて。だけど、腰は上げない。

帰る時間を待つ。

待つ時間が長ければ長いほど、私のなかで、疼きを強く育てる。

私のなかで大きく広がってゆく。どくどくと潮が満ちるように。

股間の一点から、じわりじわりと侵食してゆく。

私の中から、さわさわと広がってゆく。

下着に付いたシミ。それが、どこまでも、波のように広がってゆくように……。

待ち遠しいと思った。

貫かれることが？

違う、自分を求めること。

新しい自分を、知ることが……。

それを求める自分が、待ち遠しいとさえ感じた。

4

だから、一人になる。

背中で閉じた扉。自分一人の空間の中で。感じる。

そして求めた。

火照りを、軀の高ぶりを感じた。

ゆつくりと脱ぎ捨てる。

シュルリ、シュルリと衣擦れの音がする。

その音を耳で聞く度に、私は、軽く身を震わせる。

スカートを腰から解放したとき、体が自由になった気がした。

スカーフ、セーター、シャツ、一つ一つ。脱ぎ捨てるたびに、私は体が軽くなるのを感じる。

解放？

いや、期待。

おそろいのブラとショーツ。

股間の筋に浮かぶシミ。

ぼつりと点を残している。

ほら、ここから広がったの

そう思った瞬間、全身がわなないた。

ビクビクと震える。そのままそつと股間に、指を当てる。

んっ。

口から出た言葉。吐息。

熱い。
そつと、その甘い声を覆い被せるように
指は動く。

あつ。

教室で、感じた世界。

想像して、濡らした時から、ずつと疼い
ていた。

もたれる用意しながら、こすりつける。

指先の裏で感じた。

しめる。

熱い。そして、熱い。

乳首が、ブラの中で勃起するのを感じた。

それをつまむ。

こりこりとした弾力、指触り、話にそつ

となぞる度に、熱く高ぶるのを感じる。

くうっ……。

思わず、嘆息する息が漏れた。

待ち遠しかった時間。

このときがあるから、待つことが出来た。

常に、この高ぶりがあったら、きつとつ

まらないから。

あつ、はつ。

一つの呼吸ごとに、止めることが出来な
い。
指が、下着の上から、パンツの布の指触
り。

こすりつけながら、まさぐる。

ぬぐりと、指に当たる肉。

そのまま、裂いた。

指で強く。

その瞬間、ツボからあふれた蜜が、一気

にしたたる。

どろり

堰を切ったようにあふれ出す。

指に絡んだ。

糸を引いた。

流れる。

あふれて、求めて、強く。

はあああ。つと吐息がこぼれた。

唇をかみしめた。

その熱く激しい蜜。

しつとりと指に絡めて、沈み込ませる。
深く、そして浅く、布越しに、肉の壁を、
滑らせて。

ぬめる。奥で。

ヒグリヒグリと自分が、肉を求めてうづ

くのがわかる。

息を大きく吸い込み、勃起した乳首をひ
ねる。

一人きりの部屋で声を上げそうになる。

ヒメゴト。

求めるように指先に強くからみついた蜜
が、私を融かす。

その指先、私は、どこまでも求めた。

乳首が指先で、跳ねる。

いや、全身の痙攣、それが、波になって

指先に伝わった。

感じる、そして、悦びを求める。

指先からみついた蜜をもてあそぶよ

うに、私は……。

指先で糸を引くそれを必至になって、蜜
壺の中へ押し返す。

押ししても押ししても。

あふれてあふれて。
止めどもなく。

蜜が、わたしの中から排泄される。
蜜壺に蓋をしようと指をつき込む。

その都度、私は、自分の中にジワジワ
と悦びが広がるのを感じた。

声を上げそうになる、大きく息をつきそ
うになるのを、必至になって堪える。

あつい……。

虚の出口を指先でひっかいたとき、膝か
ら力が抜け落ちるのを感じる。

乳房は、指で優しくこねるたびに、ふに
ふにと反力をかえして。

私は、悦びのあまり、全身から抜け落
ちそうになるのを堪えた。

まだ、まだ……よ。

膝が落ちそうになるのを堪えて。

わたしは、最後のために膝に力を入れ
た。

5

赤い肉の中。

まだ、緋色をしている肉。

ピンク色の肉と、ギザギザのうろの中か
ら。

小さく、まある意志級を包むツボの奥。

わたしを感じさせてくれる、世界。

同じ乳首ピンクなのに、中は、まだ新鮮
で艶やか。

鏡で覗いたとき、てらてらと愛液で濡れ
て、神秘的な世界。

それを今私は、自分で犯す。

いけないことをしているような刺激。
それが、心地よくて。

くちびるをかんだ。

声押し殺す。

ひっかいた時、指の隙間から、こぼれる。

はっ。

強く呼吸をして。

声押し殺した。

緋色の肉。

それ指先でこそぐたびに、さつきまで
はしなかった淫らな音が、耳の奥で響く。

ああ。

これを感じたかった。

心地よさ。

この瞬間が、私を自覚させる。

生きていること、その悦び。

快樂、だと、それにおぼれている自分。

まるで、けだものようだ。

そう思いながら、鼻孔をくすぐる香り。
妖しい。

なまめかしく、そして生々しい。

それを口元へと。

真つ赤な舌の上へと、同じ緋色から産ま
れた蜜を。

はこぶ。

そのまま、舌の上に載せて、転がす。

んっ……。

どろりとした味。

海水のようで、重くて、舌の上から広がる。

その指先を、しっとり舐める。

舌を絡め。

どこまでも深く。

まるで、気に絡む蛇のように、舌を指先に絡め。

ぴちやぴちやと舐め取る。

音が……私の頭の中で響いた。

これが、白濁とした精液なら、どうなるのだろうか？

そう思うと、腰が震えた。

一番強く、今までにないほどにわななく。

貫かれる。

肉の棒にそれを想像するだけで、わたしは……。

わたしは獣になる。

証が欲しい。

ここにいるという証が……。

肉の棒を求めたとき。

私はそれを代弁するかのように再び指を

つき入れて。

強く、強く、求めた。

下着の奥に滑り込ませた指。

強く、小さく、赤い真珠をつまんで、ひねった。

電撃が走る。

ああっ！ やつと声を上げたとき。

すべてから解放されたような喜び、誰かに貫かれたような喜びに腰をふるわせる。

ああ、ああ。

そう放心したように私は、べたりと座り込んでいた。

ハアハアと、息をついて、膝を曲げへたり込んだ。

波のようなその快楽の中に、全身を抱かれたとき、力が抜けて。

しゃわわつと音を発して、私は自分の股

間から、おしっこが流れ出したのを感じていた。

じわじわと、広がる。

部屋の中に、私が流れ落とした汚れを広

げてゆく。

でも、これが、わたしがここにいた証なのだとしたら。

わたしが、ここにいるのだと言う証になるのなら。

思わず妖艶に口元をゆがめて

破顔した。

まあ、こんなのも良いかな？

おわり



POPでございます
今回はお誘いありがとうございます
いつも涼樹さんにはお世話になりっぱなしです
たいへん感謝です

なにが描きたかったのかさっぱりなものに
なってしまった…
申し訳ないです
次回
次回リベンジを———!

関係ないけど
今度また秋葉あたりで
食事とか飲みとかしましょー

毒はきながらw

POP



木
木
野

一
護

「おゆては
見たけど」
「おゆりん」は
全然見てなかったり。
けりは——。

テシイ
カンク 之★

■あどがき■

JIBAKU-SYSTEM

2005.03.21

MAIL : kimidori@pb.highway.ne.jp
URL : <http://home9.highway.ne.jp/jibaku/>
『深森亭』自爆 SYSTEMホームページ

DAY LIGHT STAFF

■ POP (ElectromagneticWave) 様 ■



お誘い有り難うございますー。
エロくなくて申し訳ないです^^!
涼樹さんのエロエロな絵はすごいです。
もっと究極エロス極めて下さいー。

ElectromagneticWave
POP

■え★+りん★ (テンタイ→カンソク) 様 ■

自爆 SYSTEM ファンクラブ皆さん、こんにちわ。

初めまして、テンタイ→カンソクです。

今回、横浜市をこよなく愛するナイス・ガイこと涼樹天晴先生に
ゲストで呼んで頂き、鼻血が止まらなくなるほど光栄でした♪

これからに夜な夜なですが深森亭を訪れますので、

見かけたらかまってくださいー (文：りん★)

横浜市同人指定地域生息 テンタイ→カンソク え★+りん★

■しだれ桜 様■

涼樹氏には、またもご迷惑をおかけしました。
すいません。m (_ _) m

HDDは飛ぶわ。某メーカーに拉致られるわ。
もう、トラブル続きでしたが、何とか形に出来ました。
PCトラブルに対処してくれたI氏やA氏には、ホント頭が上がりません。
今度、お礼します。

それ以上に涼樹氏にもホント、しゃれにならないほどの迷惑をおかけしました。
すいませんです。
あと、挿絵を描いてくれたむらやまくんありがとう。

最後に宣伝です。
『巣作りドラゴン』と言うエロゲのノベライズ見かけたら、読んでください。
アンケート書いて頂けると本当うれしいです。
あと、お仕事ください。 メールアドレス sidarezakura@hotmail.com

■むらやまたかひろ 様■



寒 小石派...
... ぬんげん.

むらやま

■涼樹天晴■

この本にかかわってくれた全ての人に感謝を

現在 2005年 03月 18日締め切り秒読み本当に間に合うのか疑問だけどトム出版様ありがとうございます。
P31からの落書きページは今回コピー本として作ろうと思ってたけど締め切り延びたからいれちゃえという

代物です。再びトム出版様感謝。
それとゲストさまありがと一結構洒落にならない人達に描いてもらいました。
ありがたやありがたや`あでも南条さんコメントくれなかったなーw
とゆうわけでゲスト様はあと「南条飛鳥」様がいます。

●●お願い生徒会長様

「莓」

2005年03月21日初版発行

2005年04月10日二版発行

発行 自爆SYSTEM (涼樹天晴)

HP : <http://home9.highway.ne.jp/jibaku/>

メール : kimidori@pb.highway.ne.jp

印刷所 トム出版 様

18歳以下の未成年への販売を禁止

無断転載・複写を禁止